

自動改札機

もう、今では当たり前で、大変便利な『自動改札機』も、現在の方式の装置を開発し、**全国で最初**に設置したのが、阪急です。

鉄チャン的話題の少ない阪急ですが、自動改札機の開発、導入には力を入れたようです。

物の本によると、昭和30年代に、阪大と近鉄で乗車券の自動清算機などの研究をしていたものが、少しずつ方向が固まりだしたところに、東京オリンピックが開催され、その後、大阪万博が昭和45年に開催されることになった。阪急がこの研究に目をつけて、大阪万博までに自動改札機の開発は出来ないか？と立石電機(オムロン)に声をかけて現在の自動改札機の原型となるものができあがったようです。

このモルモットの原型が最初に設置されたのが、『阪急北千里駅』ですが、皆さん記憶にあると思いますが、『定期券専用機』でした。

当初は故障も多く、乗客の取扱方も不十分で、各機械に駅員が常駐していたことを覚えています。

その後、研究が進み、万博後の昭和46年に現在方式の切符も定期券も共用方のものが出来上がっています。

(右写真は、北千里駅に初期に設置された定期券専用機)



(左写真は、現在の阪急梅田駅の自動改札機)

なお、この初期の自動改札機は、権威ある『IEEEマイルストーン』賞を受賞しています。

蛇足ながらネットで調べると

この賞を受けたものには、『八木アンテナ』『富士山レーダ』『新幹線』『セイコークウォーツ』などがあるようです。

